



山中みさお県議会レポート

発行／自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411

桜木町の県営水道未普及地域

250戸の給水要望受け工事着手!

若葉区
特集

6月県議会 一般質問

4月の県議選で若葉区から3期目の当選を果たした山中操（やまなか みさお）県議は、改選後初の定例県議会でも早くも一般質問に登壇し、市民から付託された新たな任期を全うするため、地域の諸課題に真正面から取り組む姿勢を明確にしました。この中で、若葉区桜木町の県営水道未普及地域の住民から出されていた県水の給水要望に対し、山中県議の働きかけによって、今後、早期給水に向けて水道管敷設工事が着手されることになりました。

また、山中県議はさきの東日本大震災の復旧・復興に向けて、補正予算の編成に当たっては、県民、市民の立場から森田知事ら県執行部への提案を行ってきた。6月県議会での主な質疑と県内の震災状況を特集でお届けしました。



6月県議会で登壇し、県担当者に質問する山中操県議

地域課題に真正面から取り組み

から「給水要望書」が、千葉県水道事務所に提出されたので、現在、内容の審査を進めています。今後は、必要な手続きを迅速に行うと共に、現場調査を行うなど、配水管敷設に向けて地元と協議・調整を行ってまいります。

山中議員 工事後の使用開始は、いつごろと計画されているのか。

水道局長 当局としては、給水を希望されているお客様と調整を図りながら、水道使用の早期開始に向け、工事を進めてまいりたいと考えております。

高齢者の孤立化を防げ!

山中議員 高齢者の孤立化を防ぐと、若葉区の大宮台団地自治会では、立石悟自治会長を中心に、住民同士がお互いに見守る、安否確認のネットワークを作っています。県として、一人暮らしなど高齢者の孤立化を防ぐため、どのように取り組んでいくのか。

森田知事 県ではこれまで、地域住民と民生委員や社会福祉協議会、NPO等との協働による地域のさまざまな問題解決に向けた住民相互の支え合い活動の促進

泉高校を先駆的に指定

地域連携アクティブスクール

山中議員 地域連携アクティブスクールの設置に向けた取り組み状況はどうか。

県教育長 地域連携アクティブスクールは、地域の教育力を活用した実践的なキャリア教育を通じ、生徒の意欲や能力を十分に引き出し、地域とともに生きる自立した社会人を育成する

“ふるさと”の復活に全力で

法律・税務・行政等
お気軽にご相談
ください!!

〒264-0024
千葉市若葉区高品町1585-21

山中みさお県議事務所

TEL.043-234-5252
FAX.043-233-7411

ホームページ＝<http://www.yamanakamisao.jp>
E・メール＝info@yamanakamisao.jp

ための新たなタイプの学校です。

本県では、これまで4校で実践研究を行ってきたが、地元出身生徒が多く、地域の支援が得やすい泉高校と天羽高校を、先駆的に準備校として指定したところ。現在、就業体験の受け入れ企業の開拓に当たるキャリア教育支援コーナー（ダイネーター）を配置するなど、平成24年度の設置に向けた取り組みを進めております。

今後は、中学生や地域等に対する広報活動を行い、広く県民への周知に努めてまいります。

東日本大震災 県内に深い傷跡を刻み



雨の中、被災地の旭市飯岡を視察する山中操県議

東日本大震災は、東北各県だけでなく、千葉県にも深い傷跡を刻みつけました。県内の被害状況は、死者20人、行方不明者2人、負傷者248人。火災12件（うち千葉市は5件）。建物被害は、全壊780棟（同19棟）、半壊8378棟（同558棟）、一部損壊は約2万8千3百棟（同約1千棟）に及びました（7月11

この結果、5月臨時県議会では、総額528億円余りの一般会計追加補正予算案が上程され、全会一致で可決されました。主な予算は、中小企業対策や農地・農業施設の災害復旧対策、液状化対策に加え、被災者の生活再建支援として、住宅建て替えローンの利子補

相次ぐ補正予算で震災対応

日本人の、誰にとっても忘れることのできない、あの3月11日。未曾有の大災害をもたらした東日本大震災から、1日も早い復旧・復興を願い、被災地では猛暑の中、懸命な努力が続いています。

若葉区選出の山中操県議は、直ちに県に対し早急な被災者対策を講じるよう申し入れ、自民党県連は、4月28日に液状化被害や中小企業支援など震災対策の早急な実施を求めて18項目の緊急要望を県当局に提出しました。

また、6月定例県議会では、さらに328億1千8百万円の補正予算が組み入れ、5月補正に対する補完的な震災対策が追加されました。中小企業の資金繰りを支援する「震災復興枠」として300億円の融資枠が拡大され、ほかにも、原発事故の影響への対応として、携帯可能な放射線量測定器のサーベイメーターを35台導入するほか、海水浴シーズンを前に、海水中の放射能濃度を測定するための経費などが計上されました。（被災写真は千葉日報社提供※）



津波で倒壊した建物と流された車(旭市内)※



地震発生後、防災ずきんをかぶって集団下校する児童たち(中央区の新宿小学校)※

液状化に県独自の支援制度

今回の大震災では、都市部を中心に液状化現象による住宅や都市機能への甚大な被害を生じたことが特徴の一つでした。液状化によって、多くの住宅が傾いたり、地下の上下水道が破損、日常生活に多大な支障が生じ、千葉市でも美浜区を中心に被害が発生しました。

このため、県では液状化で被害を受けた戸建て住宅に対し、国の支援制度では対象とならない被害の救済を図るため、県独自の支援制度を創設しました。液状化によって被害を受けた住宅を解体する場合、もしくは地盤を修復する場合は100万円を補助するというものです。

ほかにも、住宅の建て替えるための借入金に対する利子補給なども行われます。



すさまじい爆発音とともに燃え続けた市原市のコスモ石油千葉製油※



液状化によって道路から隆起したマンホール(我孫子市)※

山中みさお・PROFILE

略歴

- 昭和25年4月 千葉市若葉区高品町生まれ
- 昭和38年3月 市立院内小卒業
- 昭和41年3月 市立椿森中卒業
- 昭和44年3月 県立千葉東高校卒業
- 昭和48年3月 日本大学理工学部卒業
- 昭和48年4月 参議院議員渡辺一太郎秘書
- 昭和52年 衆議院議員染谷誠秘書
- 昭和52年 高品ハウジング設立(代表取締役)
- 平成15年4月 県議会議員初当選
- 平成15年4月 県議会環境生活警察常任委員長歴任
- 平成19年4月 県議会議員再選
- 平成23年4月 県議会議員三選

現職

- 県議会 健康福祉常任委員会委員
- 千葉県 生活衛生適正化審議会委員
- 自民党県連 組織本部長・議員会副会長
- 千葉市青少年相談員OB
- 千葉東交通安全協会指導員
- 千葉東高校同窓会副会長